

## 令和4年度 シラバス（公民）

学番 28 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校

教 科	科 目	単位数	教科書名	副教材名等
公 民	現代社会	2	高等学校 改訂版 現代社会（第一学習社）	フォーラム現代社会 2022 （とうほう）

### 1 学習目標

到達目標、 具体的な取り組み 及び留意点	人間尊重と科学的探究精神に基き、広い視野に立って、現代社会と人間についての理解を深めさせる。現代社会の課題について主体的に考察し、公正に判断するとともに人間としての在り方生き方について考察する力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
授業形態及び 履修条件等	3年次の必修科目

### 2 学習計画

月	指導単元	指導内容	考查及び 評価方法	時 数	評価の ポイント
4	第1編 私たちの生きる社会 1. 地球環境問題 2. 資源・エネルギー問題 3. 科学技術の発達と生命倫理 4. 高度情報社会と私たちの生活	①地球環境をめぐる対立 ②資源の安定的確保に向けて ③再生医療の未来 ④高度情報社会と私たちの生活	第1回考查	6	考查の素点 提出課題 ノート提出
	第2編 現代社会と人間としての あり方生き方 第1章 青年期と自己形成	①青年期の意義と自己形成の課題 ②現代社会における青年の生き方 ③伝統や文化と私たちの生活			
6	第2章 個人の尊重と法の支 配	①民主政治における個人と国家 ②基本的人権と法の支配 ③世界のおもな政治体制	第2回考查	7	考查の素点 提出課題 ノート提出
	第3章 現代の民主政治と 政治参加の意義	①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と安全保障 ③基本的人権の保障と新しい人権 ④国民主権と議会制民主主義 ⑤内閣と行政の民主化 ⑥裁判所と人権保障 ⑦地方自治と住民の福祉 ⑧世論形成と政治参加			
9	第4章 国際政治の動向と 日本の役割	①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③今日の国際社会 ④核兵器の廃絶と国際平和 ⑤地域紛争と人種・民族問題 ⑥国境と領土問題 ⑦外交政策と日本の役割	第3回考查	8	考查の素点 提出課題 ノート提出

10	第5章 現代の経済社会と私たちの生活	①経済社会と経済体制 ②経済主体と企業の活動 ③市場経済のしくみ ④経済成長と景気変動 ⑤政府の経済的役割と租税の意義 ⑥金融機関のはたらき	第4回考査	7	考査の素点 提出課題 ノート提出
11	第5章 現代の経済社会と私たちの生活	⑦戦後の日本経済の動き ⑧産業構造の変化 ⑨雇用と労働問題 ⑩公害の防止と環境保全 ⑪消費者保護と契約 ⑫社会保障と国民福祉		8	
12	第6章 国際経済の動向と日本の役割	①国際経済のしくみと貿易の拡大 ②進む経済統合 ③国際経済の動向 ④発展途上国の経済と南北問題 ⑤国際協調と日本の役割	第5回考査	7	考査の素点 課題提出 ノート提出
1	第7章 現代に生きる倫理	①豊かな人生と求めて ②日本の伝統的なものの考え方 ③近代の西洋思想 ④現代に生きる人間の倫理 ①個人と社会の関係		7	
2	第3編 ともに生きる社会をめざして	②社会と社会の関係 ③将来世代と現役世代の関係		6	

計 70 時間(50 分授業)

\*生徒の進路・関心を配慮しながら、各担当者が重点を置く単元を選択する場合もある。

### 3 指導の重点

- ・現代社会が政治・経済・国際関係の視点から鮮明に見えるよう、基礎的・基本的知識を身に付ける。
- ・現代社会の課題を客観的な目で吟味し、自分の意見を分かり易く他者に発信できるようにする。

### 4 課題提出物等

- ・定期テストの際に課題を提出。
- ・定期テストの後に板書事項をまとめたノートを提出。

### 5 評価の規準と評価方法

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、定期テスト・提出物・授業への取り組みなどを考慮して総合的に評価します。			

### 6 担当者からの一言

現代社会についての知識や理解を深めることは、受験科目の有無にかかわらず、教養となって身に付くものである。社会の一員として生活していくためにも、TVや新聞等で報じられるニュースを理解でき、更にはそれについて考える知識が必要となる。

現代社会を学習していく上では、毎日の新聞には目を通すとともに、ニュースや「クローズアップ現代」のような時事問題の解説番組の視聴が望ましい。